

※ この原稿は 2007,11,22 開催の全日本リコーダー教育研究大会・「兵庫・高砂大会」の要項に掲載いただいたものです。その後(2010.05)部分改訂して**5版目**。

※ お読みいただき賛同いただけましたら、お知り合いの方にも配布くださると幸いです。

ドイツ式リコーダーを教えている先生へ

～ドイツ式を吹かせているあなた、いつまで間違いを続けますか？児童が犠牲になっています。そして、あなたも犠牲者であることに気付いていますか？～

新潟県三条市立一ノ木戸小学校教諭 樋熊 三津男

<はじめに>

平成 11 年度 小学校学習指導要領の改訂でリコーダーは選択楽器の 1 つになりました。しかし、その後も 3 学年でリコーダーを正式採用してきた学校がほとんどでしょうし、このことは、平成 20 年 3 月告示、22 年度、新学習指導要領本格実施以降においても変わらないと考えます。

ところで、あるメーカーが平成 19 年度、全国の小学生に販売したリコーダーの 80% 以上がドイツ式でした。このデータから、日本はリコーダー教育後進国といわれても仕方がないと思います。あなたは、イギリス式それともドイツ式、いずれを採用していますか？

そこで、あなたがドイツ式リコーダーを採用しているようでしたら、今の指導姿勢を見直し、指導の改善を図るようお願いしたいと思います。それは、あなたの音楽教育のレベルアップになり、日本のリコーダー教育のレベルアップになると確信するからです。あなたは、次のような思いでドイツ式を採用しているのではないのでしょうか。推測でものを申して失礼かとは思いますが、ご容赦ください。「小学校時代、ドイツ式のリコーダーを吹いていました。イギリス式に比べて、ハ長調のファが簡単に出せるので、子供にもファで苦労させたくないから、ドイツ式にします。」と。でも、あなたは、ファの運指 01234 が児童にとって楽だから、ということだけしか考えていないではありませんか？そして、あなたがリコーダー指導で楽をしたいからではありませんか？これがあなたの大きな誤りであり、児童の不幸の始まりです。

▼ 注釈…リコーダーの運指法は、歴史的運指法と 20 世紀に考え出された現代の運指法の 2 つに大きく分けられます。

1 歴史的運指法(old fingering)

- ① ルネッサンス式/S. ガナッシ 1535 年
- ② バロック式/J.M.オトテール 1707 年

2 現代の運指法(modern fingering)

- ① イギリス式/A.ドルメッチ 1918~1919 年…一般にバロック式[B]と呼ばれている
- ② ドイツ式/P.ハルラン 1926 年…一般にジャーマン式[G]と呼ばれている

さて、ドイツ式をめぐる問題点を挙げてみます。

<ドイツ式をめぐる問題点>

□ **ドイツ式のリコーダーは、**

1 「負の遺産、欠陥品、楽器ではない」と言われている。

ドイツ人、P. ハルランが 1926 年に、歴史的運指法のバロック式リコーダーをハ

長調のファを簡単に押さえられるように指孔を変えてしまったために生まれた改悪品です。本国ドイツの教育界は1960年代に間違いに気づき、イギリス式に改善しました。ハルラン自身は、後悔し歴史的楽器の復元と古楽復興に貢献しました。

バイオリンのストラディバリウスが生まれたように、バロック時代にリコーダーの名器は完成しました。オトテール、ブレッサン、デンナー等。それらは当然、バロック式であり、現代ではそれらの楽器のコピーや同等の楽器が製作され、今やかなり高水準のプラスチック製楽器が教育現場に提供されています。

2 #ファ、#ソが難しくなる。

採用する際には、主にハ長調とヘ長調さえ吹くことができればいいと思われているように推測します。ト長調は演奏が難しく、テンポが速ければ無理です。ニ長調は推して知るべしです。そのため、様々な調性・様々な音楽への展開が望めません。児童の立場に立ち、児童の将来にわたる音楽の学び、音楽的成長の可能性を考えているといえますか？

3 音程が悪い。

4の指孔が大きいため、オクターブが狭い音程になり、特にソの音程が上がりやすい。派生音(井、b)の音程が悪い。これは指孔(4と5)の大きさを変えてしまったことにより、物理的・音響学的理論に合わなくなったためです。

□ ドイツ式を採用している教師は、

4 児童の順応性・可能性を引き出していない。

イギリス式の運指指導システム(後述)に従って指導すれば、イギリス式のファは自然にマスターできるようになります。

5 あなたも犠牲者である。

小学校時代、ドイツ式だったために、リコーダーで楽しめたはずの魅力的な音楽の世界をあなたは味わえないで来てしまったのです。

6 リコーダーを用いて真の音楽表現を児童に追求させてやるのが困難であり、児童の生涯音楽を考えているとは思えない。

イギリス式であれば、児童が自分で音楽を生活の中で楽しむ活動を展開していけるのに、その夢を小学校3学年でこわしていることになります。そんなつもりはないでしょうが、でも…。

□ ドイツ式リコーダーを吹いている児童は、

7 中学校でアルト・リコーダーを吹くとき、ハ長調音階・ニ長調音階で困難な場面に遭遇しつまずく可能性が高い。

現在、アルト・リコーダーはすべてイギリス式です。運指を使い分けなければいけません。あなたの教え子はそのときあなたの顔を思い出しますよ。

8 バロックの名曲などリコーダーソロ曲やS・A・T・Bを使ったアンサンブル曲をどの楽器でも吹けるようにはなれない。

上記同様、楽器を持ち替える(パート交代等)度に、例えば01234と0123467の指(他のいくつかの指も)をいちいち変えなくてはならないなんて…。いらいらしてアンサンブルどころではありません。テナーリコーダー・バスリコーダーもドイツ式は製造していません。

9 吹けるようになったリコーダー(といっても、吹けない調があるから…)で生涯音楽を楽しもうとしても難しい。(同8)

□ ドイツ式が蔓延している日本のリコーダー音楽教育(界)は、

10 イギリスやドイツなどに比べ後進国レベルである。

イギリスはもとより、ドイツ式の生まれた本国ドイツは70%がイギリス式であり、日本のドイツ式の蔓延振りがあきられています。

11 文科省がきちんとした指針を示して来なかった。

昭和26年の指導要領(私案)でドイツ式運指またはフラジオレット運指(と思われる)の縦笛(当時の日本人でイギリス式を認識していた人はいなかったようだ)を採用しました。以来、先進国の事情やイギリス式の楽器が正しい楽器であること等についての情報把握はしてきていたと思いますが…。

12 本物の楽器(イギリス式)を提供したい楽器メーカーからは、憂えられていると思う。

メーカーにとってお客様は神様。ドイツ式を採用している教師を目の前にして、この先生は分かっていないなと思ってもドイツ式を売ります。利益を考えなければいけませんから。「先生!ドイツ式は間違っていますよ。」などとは口が裂けても言えないでしょう。よい楽器を作ろうと研究している楽器メーカーのモラルとして本当は本物であるイギリス式を提供したいと思っていることでしょう。

13 リコーダー奏者、リコーダー教育研究家・実践家、イギリス式を採用して指導している教師からは、ずっと以前から憂えられている。

辛口すぎましたでしょうか?でも事実です。指導改善を図るには、認識を変えて、行動を起こすことです。つまり、ドイツ式を止めてイギリス式に変えることです。

では、その後の指導をどう進めたらいいか提案します。参考にいただき、指導改善を積み重ねていきましょう。

＜今後の指針＞

1 楽器ではないドイツ式リコーダーの採用を止め、本物の楽器であるイギリス式に変える。

リコーダーは、「簡易楽器」ではなく、「楽器」です。リコーダーが芸術的な楽器であるという認識を今こそすべきです。微妙なニュアンス、様々な音楽的表現が児童の持つプラスチック製のイギリス式ソプラノ・リコーダーで十分可能です。

バッハ・ヘンデル・テレマン等の大作曲家もリコーダーのための曲を作曲していることは周知のことと思います。

リコーダー音楽は、ルネッサンス・バロックの名曲(独奏・重奏・合奏)の他に、現代作品、様々なジャンルの編曲作品、それらの合奏・重奏による演奏等、リコーダー音楽の様式は進化しています。つまり、リコーダーによる音楽表現の可能性は、拡がりつつあるのです。楽器としてのリコーダー、リコーダー音楽の素晴らしさを再認識して欲しいですね。全日本リコーダーコンテスト[全日本リコーダー教育研究会主催、東京(ここ数年は江戸川区立総合文化センター)にて毎年3月末に開催]を聴いてみると一目(聴?)瞭然です。

2 イギリス式運指指導システムに従い、それに合った教材(曲)を扱う。

イギリス式運指指導システムのポイントは、ファを後にもってくることです。シ・ラ・ソ・下ミレド、そしてファ。(ウォルター・バーグマン著「ソプラノリコーダーレッスン」)あるいは、ソの次に#ファを扱う。ドイツ式でソの後にファをすぐやるのと同じですね。

ここで忘れてならないことは、上記運指指導システムに従って指導するとき、イギリス式に合った教材を用いることです。そのための教材は、日本にはたくさんあります。

※ 吉沢実、金子健治、北村俊彦、平島勉、ドン・ミューロ等による簡単に楽しく素敵な曲集が数多く出版されています。

3 ①簡単に②楽しく③感性や表現力を磨く学習活動(指導)を進める。

3 学年の時点は、左手だけでもいいと私は思っています。ただし、①～③を大切に
してリコーダーの好きな子を育てることが条件です。1 音から少しずつ指数を増やし
つつ、ゆったりとした叙情的な曲や楽しいリズムカルな曲などいろいろな曲想を扱
います。また、わらべうたなど音数の少ない歌唱教材を用い、歌うことにヒントを得て、
リコーダーを歌うように演奏するよう感性を磨きながら表現力も磨きます。歌唱表現
と楽器演奏表現の一致を学習するのです。それから、常に、いい音・いい演奏・様々
な演奏を聴かせ感性を磨くことはずっと大切にしていきたいと思います。

このような指導を通して児童が変容する姿に教師自ら学びつつ、リコーダーの価
値・音楽の素晴らしさに対する認識を深めてあげて欲しいと願います。

- 4 慣れてきたら、歌唱教材を歌いリコーダーで演奏することを、無理なく可能な限り取
り入れ、合奏でも使い、感性と表現力をより一層伸ばす。

いわば何でも吹けるような状態を目指します。4 学年の時点から。殆ど吹ける子も
いるし、一部分はできるけど全部は吹けない子もいるという状態でいいと思います。
全員同等にというは無理が生じます。できない子がいじめられず優しく教え合う土壌
を育てることです。様々な曲想を味わい、多様な歌い方を通して表現方法を獲得しな
がら、使える指使いも徐々に増やしていきます。また、合奏の中で他楽器とのアンサ
ンプルをする際は、ピッチを合わせ、音色を生かし、音量のバランスに一番配慮をし
ます。歌う曲(器楽曲も)はリコーダーでも演奏できるようになると、リコーダーで養
った音程感を歌に生かすことができます。また、合唱曲を合奏でもできるようになると、
合唱の練習が指導者の先導から離れ、児童の手で可能となります。

<終わりに>

イギリス式リコーダーを使い、児童に音楽を楽しむ奥深い幸せを与えてあげてください。
音楽はただ単に音を楽しむだけでなく、生きる力を与えてくれるものです。であるからこ
そ私たちは、児童に生涯音楽を培ってあげることが目標に音楽教育を展開していくことが
大切ではないでしょうか。それを可能にするのが、イギリス式リコーダーです。バッハや
ヘンデルの作品を演奏する姿、リコーダーで培った感性・表現力を生かして他の音楽活動
を展開する姿、演奏会を友人や仲間と企画して定期的開催する姿、休日にリコーダーを
のんびり吹く姿、教え子のこんな姿を夢見て…。

- ♪ この原稿は、新潟県リコーダー教育研究会HPに掲載しています。HPからメールも可
能です。私宛に御質問・御意見をお待ちしています。

<参考文献>

- ・ リコーダーのテクニック (A.ローランドジョーンズ著、西岡信雄訳、音友)
- ・ リコーダーとその音楽 (エドガー・ハント著、西岡信雄訳、日本ショット)
- ・ ソプラノリコーダーレッスン (ウォルター・バーグマン著、高田さゆり訳、全音)
- ・ 音楽の多様化と器楽教育の今日的意義(恒内幸夫著、季刊音楽教育 第26巻1983年、音友)
- ・ 教育の場におけるリコーダー (初井律夫著、季刊音楽教育 第34巻1991年、音友)
- ・ いい音みつけた! (吉沢実著、教芸)
- ・ 指導者と学生のためのリコーダー教本(吉沢実著、ヤマハ株)
- ・ ソプラノリコーダーのエチュード (上杉紅童著、日音)
- ・ リコーダー復興史の秘密～ドイツ式リコーダー誕生の舞台裏 (安達弘潮著、音友)
- ・ バロック式とドイツ式について (天野比佐志著、第29回 全日本リコーダー教育研究大会 全国大会「高知・宿毛大会」要項 p28～p33)